学校だより〈令和８年度１１月特別号〉

下鴨

京都市立下鴨小学校　TEL　075-781-0382
校　長　　安村　俊輔　　FAX　075-781-6976
HP　http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/shimogamo-s/

令和8年度前期「『みんなで成長』アンケート」の結果について

平素は本校教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、7月に実施いたしました「『みんなで成長』アンケート」につきまして結果をまとめましたので、みなさまにお伝えいたします。なお、それぞれの項目において前年度前期の結果と比較できるようにしておりますが、アンケートは毎年回答者が異なるため、数値の増減のみで単純に評価できるものではありません。もちろん結果の変化を丁寧に見ていくことは大切ですが、それ以上に、このアンケートが子どもたちを取り巻く大人一人一人にとって、自身の関わり方や取組を振り返る機会となることを願っています。学校・保護者・地域がそれぞれの立場から子どもたちの成長を支え、同じ方向を向いて教育活動を進めていくことが、「みんなで成長」につながると考えています。

また、今年度前期の「みんなで成長」アンケートの結果については、夏季休業中に教職員全体で分析・考察を行う機会を設けました。アンケートを実施して結果を確認するだけでなく、そこから見えてくる子どもたちの姿や課題、学校として大切にしたいことについて話し合うことで、2学期以降の教育活動に生かしていきたいと考えています。考察を進める中では、アンケート項目に込められた意図について教職員間でより深く共有していくことの必要性も確認されました。後期に向けては、児童が設問の内容をより具体的にイメージして回答できるようにするとともに、教職員が皆同じ基準で設問の意図を説明できるよう共通理解を図りながら、子どもたちの成長を見取っていきたいと考えています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育目標

学びを創造し、
共に挑戦する
子どもの育成

めざす子ども像

下鴨小の「a・i・u・e・o」

- (a)mbition　：見通しをもった志のある子
- (i)nnovation：新たなことにチャレンジする子
- (u)nity　：共に力を合わせる子
- (e)steem　：自分も相手も大切にする子
- (o)riginality　：自分らしい学びを創り出す子

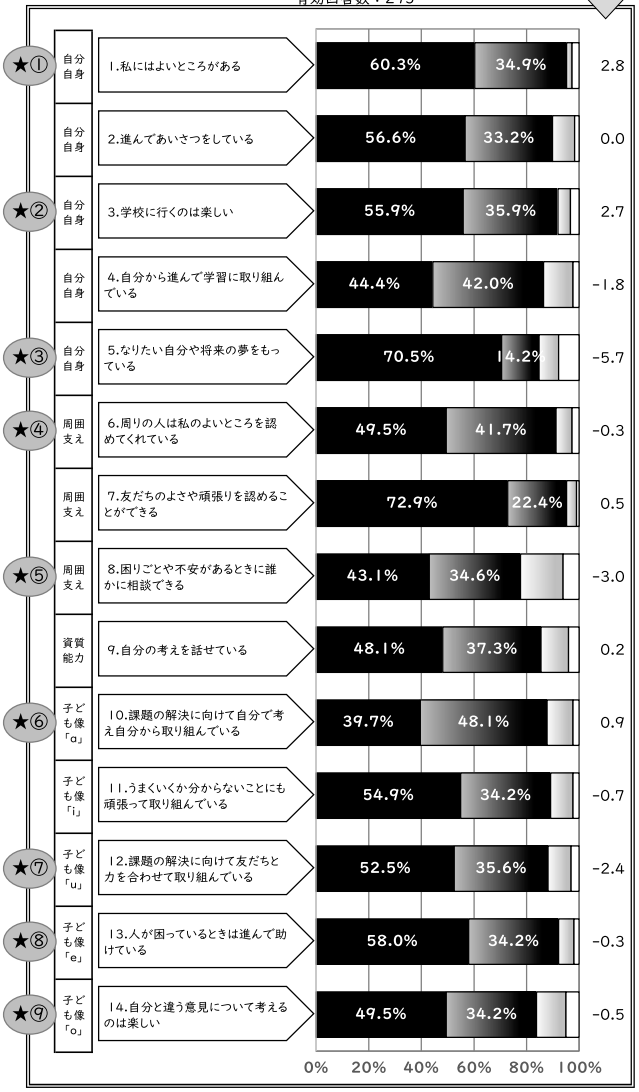




【児童】

有効回答数：295

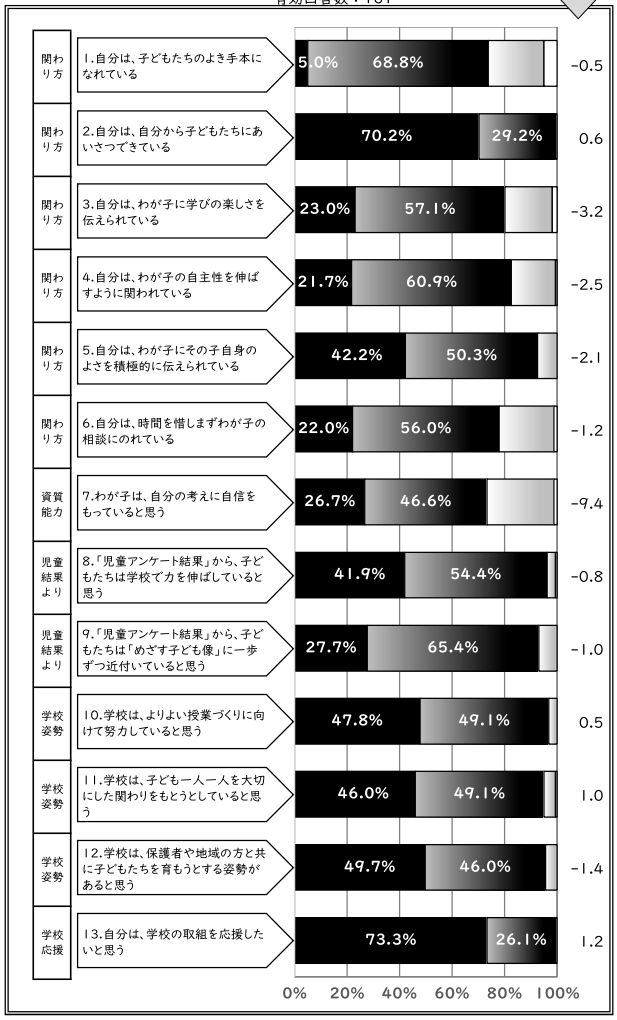
令和7年度前期の肯定的回答率との比較



【保護者】

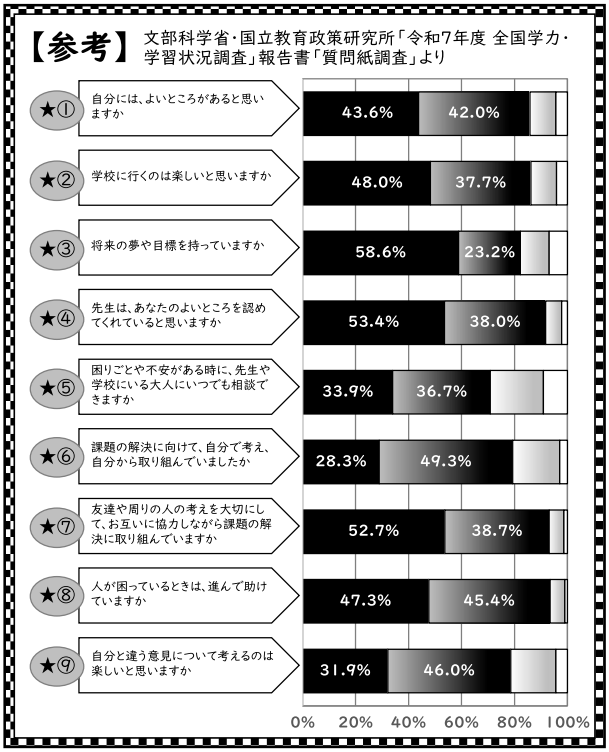
有効回答数：161

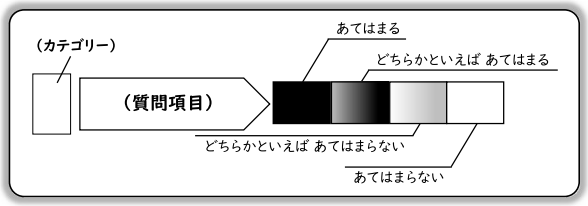
令和7年度前期の肯定的回答率との比較



全国的な傾向は…

【参考】 文部科学省・国立教育政策研究所「令和7年度 全国学力・学習状況調査」報告書「質問紙調査」より

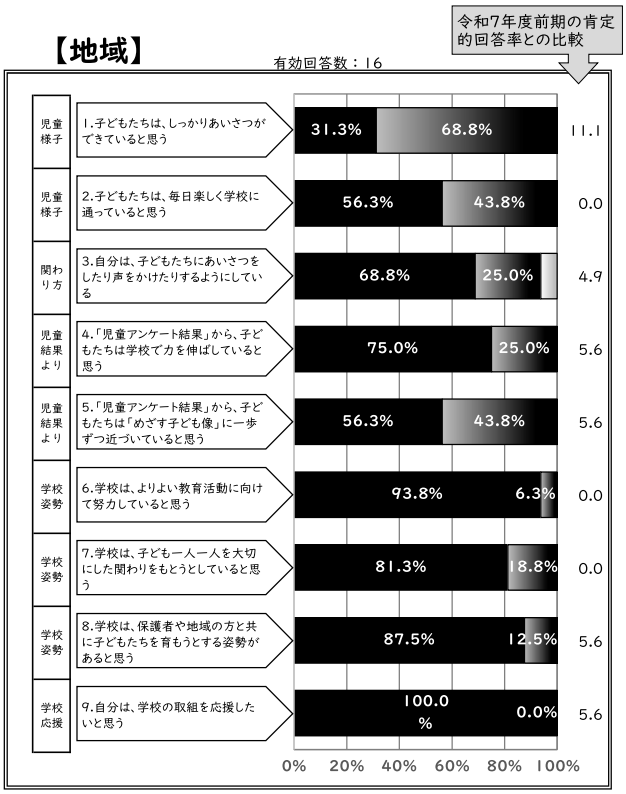






【地域】

有効回答数：16

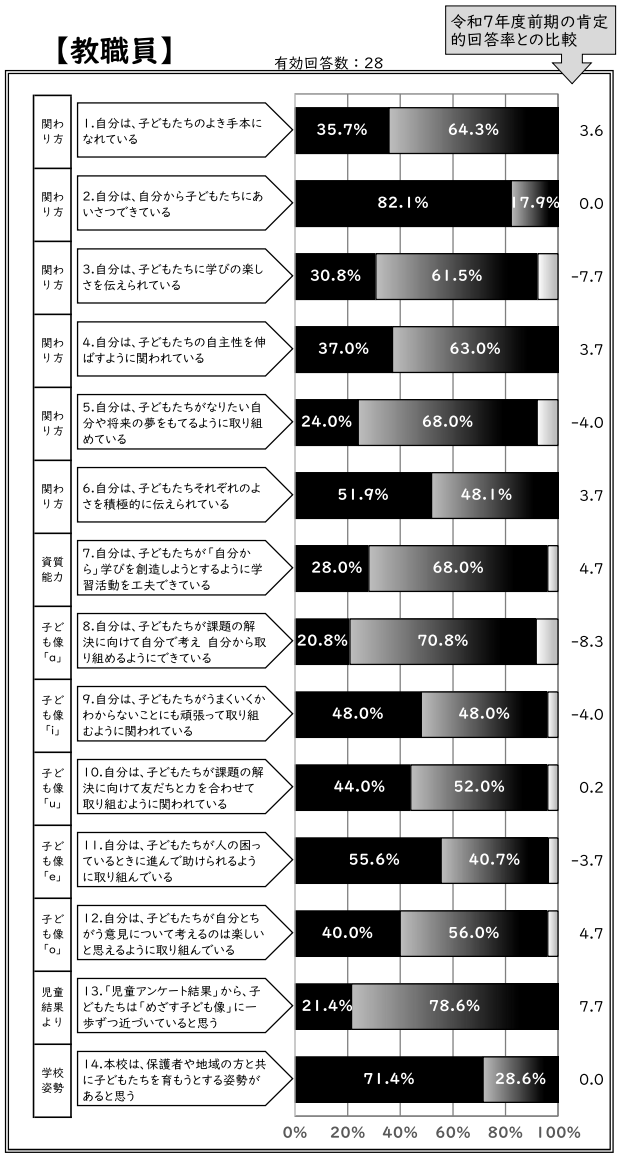






【教職員】

有効回答数：28





《各アンケート結果より》

児童アンケートより

児童アンケートの結果からは、下鴨小学校の子どもたちのよさと今後の課題の両方が見えてきました。まず、「2. 進んであいさつをしている」では、「あてはまる」が56.6%、「どちらかといえばあてはまる」が33.2%となり、約9割の児童が肯定的に回答しました。学校では今年度、「自分から進んであいさつできる下鴨小学校」をめざして「あいさつビンゴ」に取り組んできました。校内では、様々な人との挨拶を楽しむ姿も見られ、教職員自身も以前に比べて明るく挨拶しやすい雰囲気が広がっていることを実感しています。しかし、その一方で、いつでも誰にでも自分から進んで挨拶する姿にはまだ課題も見られます。今後も、挨拶がコミュニケーションの第一歩であることや、人とのつながりを築く大切な行動であることを子どもたちと共有しながら、学校全体で継続して取り組んでいきたいと考えています。そして、「8. 困りごとや不安があるときに誰かに相談できる」は、他の項目と比べるとやや低い結果となりました。学校生活の中では、学級担任だけでなく、学年や教科を越えて様々な教職員が子どもたちと関わっています。給食調理員や管理用務員を含めた多くの教職員が日頃から積極的に声をかけることで、「困ったときには誰かに相談してみよう」と感じられる環境づくりを大切にしています。また、学習場面でも、分からないことを教師だけでなく友達に相談しながら解決していくことを一つの大切な力として位置付けています。こうした経験を積み重ねながら、安心して相談できる人とのつながりをさらに広げていきたいと考えています。

さらに、今年度、学校が育成をめざしている資質・能力として「自分から」を掲げており、「4. 自分から進んで学習に取り組んでいる」や「10. 課題の解決に向けて自分から取り組んでいる」では、いずれも肯定的回答が86%を超える結果となりました。下鴨小学校の子どもたちは、様々な課題に前向きに取り組むよさをもっています。これからの時代には、自ら課題を見付け、その解決に向けて考え行動していく力がますます求められます。教職員も試行錯誤を重ねながら、子どもたちが主体的に学びを創造できる授業づくりに取り組んでいきます。

保護者・地域アンケートより

「保護者アンケート」中に記述にていただいたご意見等については、11/4（水）～11/10（火）の平日9:00～17:00まで職員室にて閲覧していただけますので、ご希望の方は職員室にお声かけください。

保護者・地域アンケートからは、子どもたちの成長を支える大人の温かな思いが伝わってきました。また自由記述欄においても温かなお言葉や様々なご意見もいただきました。保護者の皆様は、ご自身の子育てや関わりについて全体的に厳しく振り返っておられる傾向が見られました。現代社会では、仕事や家庭生活に追われる中で、ゆっくりと子どもと向き合う時間を確保することが難しい場面も少なくありません。そのような中でも、子どもたちの成長を願う気持ちは学校と同じであり、だからこそ学校・家庭・地域が同じ方向を向いて協力していくことの大切さを改めて感じています。

特に、「（保護者10）（地域6）学校は、よりよい授業づくり／教育活動に向けて努力していると思う」、「（保護者12）（地域8）学校は、保護者や地域の方と共に子どもたちを育もうとする姿勢があると思う」、「（保護者13）（地域9）自分は、学校の取組を応援したいと思う」については、保護者・地域ともに非常に高い肯定的回答をいただきました。学校を温かく見守り支えてくださる皆様の存在は、子どもたちにとっても教職員にとっても大きな力となっています。日頃から見守り活動や学校行事へのご協力など、子どもたちの目に見えないところでも多くの支えをいただいていることに、改めて感謝申し上げます。今後も、子どもたちのよりよい成長のために、学校・家庭・地域がそれぞれの立場から力を合わせていきたいと思います。

また、「（保護者7）わが子は、自分の考えに自信をもっていると思う」については、肯定的回答が73.3%となり、他の項目と比べてやや低い結果となりました。子どもたちが自分の考えに自信をもつためには、日々の生活の中で「できた」「わかった」という成功体験を積み重ねることが大切です。保護者だけでなく、学校や地域を含めた子どもを取り巻く大人が、小さな頑張りや成長を認める言葉をかけることで、子どもたちの自己肯定感や自信が少しずつ育まれていくのではないかと考えています。

教職員アンケートより

教職員アンケートでは、前年度と比較してポイントが下がっている項目も見られましたが、これは教育活動をよりよいものにしたいという教職員自身の高い意識の表れでもあると受け止めています。現状に満足するのではなく、さらに高みをめざして教育活動を見つめ直しているからこその結果であると考えています。今年度、学校では育成したい資質・能力として「自分から」を掲げています。そのため、「4. 自分は、子どもたちの自主性を伸ばすように関われている」、「7. 自分は、子どもたちが『自分から』学びを創造するように学習活動を工夫できている」、「10. 課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」といった項目について、教職員自身も強く意識しながら取り組んできました。日々の授業では、教師が答えを教える存在ではなく、子どもたちが自ら課題解決に向かう学びを支えるファシリテーターとなることを意識しています。例えば、子どもたちが考えたくなる発問を工夫したり、既習事項を活用して解決の見通しをもてるような場面を設定したりしながら、自ら学びを進める力の育成をめざしています。こうした取組はすぐに成果として現れるものではありませんが、児童アンケートで「4. 自分から進んで学習に取り組んでいる」や「10. 課題の解決に向けて自分から取り組んでいる」の肯定的回答が86%を超えていることからも、少しずつ子どもたちの姿に表れ始めているように感じています。今後も教職員一人一人が学び続けながら、子どもたちが自らの力で未来を切り拓いていけるような教育活動を進めていきたいと考えています。

学校運営協議会理事会・開かれた学校委員会からのコメント

この9月に、前期の「みんなで成長」アンケートの結果について、今回も学校運営協議会の理事会と開かれた学校委員会で意見交換を行いました。

このアンケートは、学校評価そのものではなく、子ども、保護者、教職員、そして地域の皆さんが、子どもたちや自分たちの意識や行動を振り返り、それを踏まえてともに成長していくために行っています。実際のところ、下鴨小学校の場合、アンケートの結果（スコア）はそのときどきで多少増減するものの、全体としてはほぼ高めで安定しています。このことは、本校児童の学力が全般的に高いこと、生活が比較的安定していること、地域の安全が保たれていることなどとも関係していると思います。

もちろん、項目によって、特によいと思うところ、やや気になるところはあります。

子どもたち自身の自己肯定感（児童1）、他者からの肯定感（児童6）、他者への肯定や支援（児童7・13）などは、いつもスコアが高く、とても素晴らしいと思います。子どもたち自身の力やご家庭の育みに負うところは大きいですが、教職員の支えや指導のおかげでもあると思います。やや気になるのは、取組に関するいくつかの項目（児童4・10・12）と、他者への話しかけ（児童8・9）や異なる意見の受け止め（児童14）です。やや自分を厳しめに捉えた回答なのかもしれませんし、スコア自体は決して低くはないですが（以前より上がっているものもあります）、これからの社会を生きていく上でも、自律性や自己開示は可能な限り伸ばしてほしいと願っています。決して強制するのではなく、取組を誘う、発話を待つなど、そのための環境作りは私たち大人の責任でもありますね。

児童の皆さんの日頃のがんばりと、いつも子どもたちを見守り、慈しみ、励まし、支えてくださっている保護者の皆さん、教職員の皆さん、そして地域の皆さんに、心より敬意と感謝の意をささげます。